

2005.6.12 馬場小室山遺跡から何かが始まる！

蕨 由美

いつの頃からか、毎月のように馬場小室山に集まるメンバーの中から、馬場小室山遺跡の調査が「終了」した一周年の2005年10月に、「市民フォーラム」と開こうという声があがってきて、2005年6月12日午前中、その準備のための会合が、開かれました。

馬場小室山遺跡と出会い、遺跡に学び、遺跡の保全を訴えてきた市民と考古学研究者が、共にフォーラムを開き、その意義を後世に引き継いでいこうというつぶやきが、さいたま市の史跡指定をきっかけに、実現へ向け具体化してきたのです。

初めての顔ぶれでも、これまでの研究会や地域での活動を通じて思いはひとつ。「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」の実行委員会立ち上げが、とんとん拍子に決まりました。実行委員長には、馬場小室山遺跡の近くに在住の大田堯先生（東大名誉教授・教育学）、副委員長には縄文遺跡の研究者の阿部芳郎先生（明治大学教授・考古学）に就任いただこうと。そして午後には研究会終了後、大田委員長のお宅で、第一回実行委員会を開き、正式発足の予定。馬場小室山はなんでも決まるのが早い！ですね。

その日は午後から「馬場小室山遺跡研究会」を開催、半年の歳月を重ね、とうとう6回目となりました。最初は「考古学実習入門」です。

初めて参加の方にもわかりやすいよう、埋蔵文化財行政の専門家から、整理の仕方を説明していただき、外では馬場小室山遺跡から救出した土器洗い、教室の中では資料の注記作業と、二手に分かれて行いました。



外に出て小室山の土器を洗い、干していきます



僕が洗っているのは↓の真ん中の土器です



土まみれだった土器片がこんなにきれいに

晴天の中、土器洗いは順調に進み、昨年 10 月の遺跡破壊現場の泥んこの中から皆で拾った懐かしい土器が、丁寧に洗われて干されています。

注記作業も、小さな字ではなかなか書けず難しいのですが、土器の表裏・上下を確かめながら、縄文人の手先の器用さやそのデザインの複雑さ、センスを感じていく時でもありました。



白のポスターカラーで丁寧に土器に注記します



土器が乾く間は 考古学談義に花が咲いて・・・



埋文のプロの関心は、地味な「製塩土器」？



阿部先生と一緒にみんなで土器の観察

作業の後は「馬場小室山遺跡の研究」の講演会。鈴木正博先生に『馬場小室山遺跡の「突起土偶」』についての講演と、恒例となった『大森貝塚』の学習。発掘調査に支援された阿部芳郎先生には、馬場小室山遺跡についての熱い思いをお話いただきました。

そしてその夕方、実行委員会委員長の大田堯先生のご自宅を皆で訪問し、記念すべき第1回実行委員会会議が開催されたのでした。



大田堯先生宅での第1回フォーラム実行委員会